

経営戦略のヒントを探る“ワーク・ライフ・バランス”

企業を取り巻く環境が大きく変わっていく中、変化に対応し、発展していくための“人財”活用の手法の一つが「ワーク・ライフ・バランス」です。ワーク・ライフ・バランスは、多くの企業で経営戦略として推進され、従業員に意識改革と業務の見直しを促すとともに、従業員の定着による知識・経験の喪失の回避といった効果を企業に及ぼしています。

働きやすい職場づくりを推進するため、先進的な取組事例の紹介により県内企業の経営者等がワーク・ライフ・バランスを理解し、今後の経営戦略を考える機会としてフォーラムを開催しました。

日 時：平成25年2月7日（木）13時30分から

場 所：春日野荘（奈良市法蓮町757-2）

講 師：川島貴志氏

（第一生命保険株式会社 常務執行役員）



<講演内容>

<従業員満足度はお客さま満足度につながる>

ワーク・ライフ・バランスに取り組むきっかけは内勤の女性職員の従業員満足度（E S）が低かったこと。お客さま満足度（C S）向上のために従業員満足度の向上が必要と、経営層の危機感に火を付けた。従業員満足度が低い背景に、結婚・出産後も仕事と家庭を両立しながら働き続けることができるのか、自分のキャリアの展望が分からないといった不安が根本にあった。

<トップダウンとボトムアップのワークスタイル改革、ファミリー・フレンドリー施策の充実>

トップダウンにより業務を「割り切る・やめる（廃止、簡素化）」、「まとめる（業務の本社集約）」、「お任せする（現場への権限委譲）」を進め、105 項目の業務を削減する一方、ボトムアップにより「会議・打合せダイエット」、「資料・報告ダイエット」「メール・電話ダイエット」、「移動ダイエット」といった「しごとダイエット」による業務量削減に取り組んでいる。また、計画公休制度や孫が誕生したときの3日間の「孫誕生休暇制度」、家族の転勤等により転居を余儀なくされた場合に通勤可能な所属への異動を認める「ふぁみりー転勤制度」等のファミリー・フレンドリー施策の充実を図った。

その結果、育児休業からの復職率の増加（H20:80.8%→H23:92.8%）、年次有給休暇取得率の増加（H19:35.2%→H23:68.5%）、月間平均残業時間の削減（H21:7.4 時間→H23:5.0 時間）、また、企業イメージの向上により就職人気ランキングも7位（H23 日経就職人気企業ランキング）となった。

<女性の活躍推進（ダイバーシティ）>

女性の上位職位への登用と多様な職務体験を育成プログラム化し、女性のキャリアアップを図っている。また、トップダウンとボトムアップからの意識・風土改革として、ダイバーシティ推進大会において社長以下役員、本社部長等約 450 名が参加し、その模様を全国中継によって全社員で共有した。経営トップ自らダイバーシティを推進する意志の表明、取組の好事例の発表を行った。

<女性の戦力化により生み出される好循環>

ダイバーシティの推進により、女性が戦力化されビジネスにおいて価値を生み出すようになり、生産性向上を自らが成し遂げ、売上にも貢献するといった女性が増えてきた。生産性が高くなると業務量をこなせるようになり、全体として早く帰れるようになった。それがさらなる女性の活躍推進という好循環を生み出した。

<会社の持続的成長のために経営の意志として見せる>

女性を中心に重要な役割を果たしてほしい、その結果として管理職に昇進してほしい、そのためには子育てをしながら仕事を続けるための仕掛けが必要で、ワーク・ライフ・バランスの制度を活用できるようにしないと行けない。そのためには、ワーク・ライフ・バランスの推進を経営の意志として見せることが大事である。

ワーク・ライフ・バランスの推進は女性の働きやすい職場づくりを促進し、女性のキャリアの展望を開き、仕事への意欲を向上させる。さらに、それは全職員の働きやすい職場づくりにつながり、会社と従業員が Win-Win の関係になることで、会社の持続的成長が促される。

<質疑応答>

営業効率が年々悪化している中で、従業員の生活時間を確保する、効率を向上させるという課題を乗り越えるには何をすればよいか。

<ご回答>

構造的な営業効率の悪化に対応するためには、すべての場面で効率を徹底的に見直し、ライバルより生産性・効率性を上げる。それでいてライバルよりサービスが良いということを正面から取り組むしかない。その結果、効率が上がり、労働時間が減り、副産物として生活時間が確保されるということでないとは生き残れない。

また、健全な危機感を経営者と従業員が共有して、営業効率が悪化しているのをどのように歯止めをかけるのか、ライバルに負けないようにするのか、ということそれぞれのレベルで頑張ってもらって会社が前進できるようにしないと行けない。



多数のご参加ありがとうございました。